

Seibo Volunteers

Educational Impact Report

ボランティアの声

はじめに

せいぼじゃぱんは日本を拠点とする非営利団体（NPO）で、マラウイという東南アフリカの小さな国の飢餓の問題に取り組むことで、世界に貢献することを目指しています。そのために日本全国でマラウイ産コーヒーを販売し、その収益の100%をマラウイの子供たちの給食費に直接寄付しています。また、マラウイ産のコーヒーを販売することで、マラウイのストーリーを広め、彼らが直面している問題に対する意識を高めることも可能であると考えています。

日本ではチャリティーという概念があまり一般的ではないため、せいぼでは若い人たちにチャリティーや社会的企業について学んでもらうことが重要だと考えています。そのため、高校や大学と提携し、コーヒー販売イベントを実施することでより広めています。これまで学生の皆さんは、ブランディングやイベントの広告を作成、実際のコーヒー販売を通して、創造性やマーケティング能力を発揮する機会を得ることができたと語ってくれています。仲間とともにイベントを運営することで、貴重なリーダーシップ、コミュニケーション能力、チームワーク力を育むことにも繋がっています。

このレポートを通して、学生の皆さんがせいぼの活動にどのような形で関わってきたかという例を紹介するとともに、学んだことや成長した点などの例を紹介していきます。



チャリティー
&
ソーシャルビジネス



ライフスキル



社会貢献

マラウイについて

マラウイはアフリカ南東部に位置しており、約1900万人の人々が暮らしています。政治的に安定しており平和な国であるが、世界の最貧国の一つに数えられる。特に失業率の高さと食糧不足が問題となっています。

- 人口の**52%**が**18歳未満**
- 子供の**63%**が**貧困状態**
- 人口の**37%**が**栄養失調**（**107万人**もの子供を含む）



マラウイ



VOLUNTEER 1: 平野健太郎（上智大学国際教養学部）

高校生の時、せいぼと英国の支援企業モベルのインターンシップであるMobellコースに参加したのがきっかけで、ボランティア活動を始めました。大学に入学してからは、コーヒーの販売や、マラウイでの活動について高校の先生たちにプレゼンテーションを行うなど、せいぼとの関わりを深めています。

ボランティア活動を通じて、自分と同じ価値観を持つ多様な人々とのつながりを得たと感じています。また、多様な背景を持ち、専門知識や考え方の異なる人々と出会ったことで、よりオープンな心を持つようになりました。

「多くの経験を持つ社会人から、独創的な思考と高い好奇心を持つ学生まで、さまざまな人と交流する貴重な機会を得ることができました」

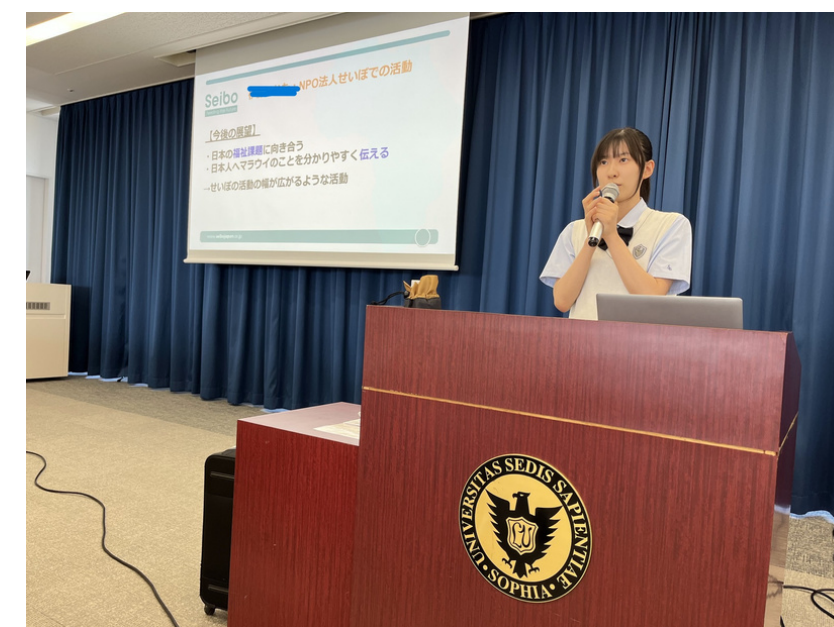


VOLUNTEER 2: 伊藤 ひなた（サレジオン国際学園高校）

社会福祉に関心があり、国際支援にも触れてみたいという思いから、学校給食という教育と子どもたちへの福祉にも繋がるNPO法人せいぼの活動に関わっています。日本の社会課題とアフリカの国際課題を比較する上で、とても有意義な学びになりました。そして、活動を広めるのをお手伝いし、実際にコーヒーの売り上げが全額寄付になることで、自分の活動の有意義さ、可能性を感じました。

活動のカトリック精神との繋がりも生かし、上智大学のカトリック推薦にも生かすことができました。2023年7月には、上智大学で開講された宗教科教育法の授業で、自分のNPOの活動の生かし方や連携方法について、発表する場を持つこともできました。

将来への成長に繋がる、とても具体的な学びになりました。



VOLUNTEER 3: 河本 珠奈（頌栄女子学院高等学校）

支援企業Mobellのインターンでせいぼの取り組みについて知り、自分自身の学校でコーヒーを販売することを始めました。売上の100%がマラウイに寄付されること、そしてオリジナルのロゴやブランディングを作成することで販売を促進できることに興味を持ちました。

当初の目標は150個のドリップコーヒーを売ることだったが、実際の売り上げは1,750個になりました。マラウイへの寄付金が非常に重要であることを認識する一方で、マラウイのストーリーを伝え、彼らが直面している状況についての認識を広めることも忘れないようにしました。

この経験から、リーダーシップとチームワーク力を身につけることができました。また、イベントの準備などを通して時間管理のスキルも身につけました。今後のイベントについては、マラウイのストーリーをさらに広めることで、より多くの人々にチャリティーに参加してもらいたいと考えています。



「何よりも、私たちの売り上げがマラウイの子どもたちの食事になると思うと、この活動は本当に価値のあるものだったと感じました」

活動後には、その内容を上智大学の特別講座である「宗教科教育法」にて、カトリック学校の教員の皆さんに発表することができました。

学校の活動では、人目を引くポスターの作り方や、情報をわかりやすく伝える方法が難しかったです。しかし、せいぼスタッフや先生、仲間のサポートにより、コミュニケーションとマーケティングのスキルを向上させることができました。当日多くの方がポスターを見にきてくれて、とても嬉しかったです。この経験を通して、今後の販売イベントやその他の活動でも、自分の能力を最大限に発揮して貢献しようと思います！



VOLUNTEER 5: 聖ウルスラ学院英知高等学校

聖ウルスラ学院英知高校は、学校でコーヒーを販売するイベントの企画・運営に携わりました。コーヒーを買ってくれる人たちに効果的に宣伝するには、マラウイのストーリーを十分に理解することがとても重要だと思いました。

この経験で、商品を宣伝するために多くの人と話したことによって、自信をつけることができました。また、コミュニケーションスキルも向上し、非常に貴重な経験となりました。経験した課題としては、お客さんの注目を集めること、そして短い時間の中でマラウイの状況を説明することなどがありました。

今後は、ポスターやリーフレットを作ってお客さんに渡し、マラウイ、そして売上金の使い道についてより詳しく知ってもらい、売上を増やしたいと考えています。



VOLUNTEER 6: 光塩女子学院中等科/高等科

「中学生から高校生までが一丸となって、一つの活動をし、具体的な支援に直接触れられた」

中学校1年生から高校2年生までが、マラウイの給食支援のために一つになり、活動することができました。販売の企画、商品の仕入れ、宣伝、販売方法とその実施まで、全てを1から実施することは、大変でしたが実りのある経験になりました。

彼らは今後のイベントに向けて、チームワークをはじめ、時間管理や、目標設定とそれに対する計画をより意識することに力を入れている。また、せいぼでの経験は、貴重なビジネススキルだけでなく、将来に役立つスキルも学ぶこともできたと言っている。



VOLUNTEER 7: サレジオ学院中学高等学校

サレジオ学院では、カトリック研究会というグループにて、課外活動としてマラウイ支援のプロジェクトを実施しています。中学生から高校生までがそれぞれの役割を持ち、一つの社会課題に向き合っています。

販売の方法も、イベントごとに販売方法を変えたり、事前に販売数を把握して販売会、プレゼンテーションの場を設けたりして、積極的に独自の活動として展開をしています。

夏休みなどの長期休暇では、プロジェクトの成長のための錬成会や、支援企業の訪問を通して、学びを深めています。

さらに、学校としては企業の持つ召命を考えつつ、自らの召命を見つけていくことも目的としています。コーヒーをマラウイから仕入れているアタカ通商株式会社様が、どのような思いでビジネスに関わっているのかなどをインタビューしています。



VOLUNTEER 8: ドミニコ学院中学高等学校

他の生徒たちとともに文化祭にて、優勝商品としてマラウイ産のコーヒーを使うゲームを企画し、効果的に宣伝する方法を考案しました。ゲーム企画とともに保護者の方が直接寄付できるように、募金箱の設置も行いました。また、宗教委員会では食べ物やマラウイ産コーヒーを販売し、その収益の一部をせいぼへの寄付に回しました。

このイベントに参加した生徒は全員、マラウイのストーリーをお客さんに効果的に伝える必要があったため、コミュニケーションスキルが身についたと感じたと言っていました。また、イベントを宣伝するためのポスターを作ることで、マーケティングスキルを学び、創造性を育むことができました。

今後のイベントに向けて、彼女はマラウイの状況についてさらに深く学び、商品を販売する際にさらに説得力を持たせられるようになることを楽しみにしています。

「マラウイやせいぼの活動について学ぶことで、自分自身だけではなく、他の人にも悲惨な状況を伝えることができると感じ、その重要性を理解した」

VOLUNTEER 9: 増田 真人 (Sophia Program for Sustainable Futures 在校生)

高校生を対象にコーヒー、サステナビリティ、NPOのマーケティング戦略との関連性について授業を行うなどの活動を実施しました。彼は若い人たちがこのテーマに興味を持ち、もっと学びたいと言ってくれるのはとても嬉しいことでした。

高校生にこのような複雑な社会問題を教えることはとても難しいことですが、自分の知識や経験を後輩たちに伝えることで、重要なコミュニケーションスキルを身につけることができたと感じました。

今後は、生徒との交流をより有意義にするために、マラウイのストーリーを正確に、そして効果的に伝わるように授業を改善したいと思っています。

「若い人たちがサステナビリティやNPOのマーケティング戦略に関心を持っているのを感じ、とても感服した」



VOLUNTEER 10: 静岡雙葉中学高等学校

チャリティー団体を支援するフォスター・フレンド・プログラムのメンバーで多くの活動に参加しています。その中の一つとしてマラウイを支援するため、学校で保護者や先生にコーヒーを販売しています。フェアトレードのコーヒーは、一般的なコーヒーよりも高価ですが、それでもお客さんが選んで買ってくれたのは、マラウイの状況を効果的に説明できたからであると感じています。

この経験は、私たちにもマラウイの子どもたちにとっても非常に有益なものだと感じています。マラウイの状況やせいぼのミッションについてお客さんに説明しなければならなかったのも、この経験で得た最も重要なスキルはコミュニケーションだと思います。

将来的には、毎月のオンライン・コーヒー定期購入に申し込んでもらうことで、より継続的にコーヒーを販売し、大人以外の幅広い客層にもアピールしていきたいです！

「マラウイのコーヒーを試飲したお客さんの笑顔がとても嬉しかったし、イベントが本当に楽しかった」

